情　報　公　開　文　書

研究の名称	富山大学附属病院における広域抗菌薬投与後薬剤耐性菌誘導リスクの調査
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院感染症科 長岡健太郎
研究の概要	【研究対象者】 この研究は、これまで 2021 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日までに富山大学附属病院に入院された患者様の診療情報（カルテ情報）を対象にします。 同期間に入院後に tazobactam/piperacillin あるいは meropenem による治療を受けたことのある患者様の診療情報（カルテ情報）を調査し、大学内での適正な薬剤耐性菌、感染症診療へ活かしていくための研究になります。 使用する診療情報は、年齢、全身の状態、性別、血液検査、微生物検査結果、使用した抗菌薬です。 【研究の目的・意義】 2000 年以降、世界的な薬剤耐性菌増加が重大な医療問題として提起されるようになり、本邦でも 2016 年から国家的な薬剤耐性菌への取り組みが行われてきました。抗菌薬を適正に使用することが進められてきましたが、2016～2020 年にかけて大腸菌やクレブシエラ菌などの菌で、薬剤耐性化に歯止めがかからないという全国調査結果も報告されています。 病原菌の薬剤耐性化は地域や施設によって異なり、また時系列に変化していきます。このため、薬剤耐性菌を含めた細菌感染症に対峙する上では、病院ごとの細菌感染の個別データをまとめ、新たに発生した細菌感染への対策を定期的に更新していく必要があります。 本研究は、そうした調査で得られたデータを学術的に解析し、学会などの場で共有し、当院の抗菌薬後の薬剤耐性菌誘導リスクを含む有害事象への対策を迅速に更新する目的で企画されました。院内感染症の横断的調査はこれまでも行ってきましたが、そこで得られた情報を院外施設と共有するためには、当院倫理委員会にも諮り、研究という形をとって患者様からの臨床情報を適正に扱う必要があります。 この研究を通し、院内感染症の調査情報を迅速に解析し、国内外の感染症情報も参照し、より有効性の高い感染症診療が行われるよう貢献できればと考えております。 【研究期間】 実施許可日　～　2026 年 4 月 1 日 【研究結果の公表の方法】 研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際は、患者様を特定できる情報は削除して発表されます。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	【研究の方法】 富山大学附属病院に入院し、抗菌薬治療を受けた際のカルテ情報を解析し、国内外の感染症データと比較検証を行います。これにより、抗菌薬使用のメリット、デメリットを抽出し、今後の診断に有用な因子を検証します。

	※カルテ情報については以下を参照します：年齢、性別、基礎疾患、療養場所（居宅、高齢者施設）、周囲の感染流行状況、感染症の臨床診断（肺炎、尿路感染など）、治療内容（抗菌薬の種類、投与期間）、予後など この研究に利用する患者様の情報に関しては、お名前、住所など、患者様個人を特定できる情報は削除し、新たに研究用の番号をつけて使用・管理します。 パソコン上のデータ保管は電子カルテに準じた保管を行い、紙媒体の情報等は、感染症学講座医局内の特定のキャビネットに施錠した状態で保管します。 研究で使用するデータ・情報は可能な限り長期間保管し、少なくとも、研究の終了について報告された日から5年が経過した日までの期間、適切に保管します。 廃棄する際は、パソコン上のデータは消去、紙媒体の情報等はシュレッダーを用いて、再現不能な形式にして廃棄します
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院　病院長　林篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学附属病院感染症科 長岡健太郎
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話　076-434-7245 FAX　076-434-5018 E-mail　knagaoka@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名　富山大学附属病院感染症科・長岡健太郎